

平成 29 年度 事業報告書

自：平成 29 年 4 月 1 日

至：平成 30 年 3 月 31 日

社会福祉法人いこま福祉会

1. 法人本部

「地域共生社会」をキーワードに福祉制度の見直しが本格的なものとなってきた。平成30年度の報酬改定では共生型サービスが導入され、さらに見直しが予定されている生活困窮者自立支援法では、「相談・現物給付による支援」、「認定就労訓練事業」、「居住支援法人」等、これらの多様化したサービスを社会福祉法人が担えるよう、準備が進められている。これらは、いずれも「地域共生社会」に向けた対応と言える。

また、平成29年度から社会福祉法人の内部留保の明確化と余裕財産を再投じた具体的な社会福祉充実事業が義務付けられた。そして、余裕財産の有る無しに関わらず、地域公益事業を推進することも社会福祉法人に強く求められている。

福祉が「サービス」という名に置き換えられ、今回はそのサービスの狭間を埋めるべく生まれた新たなサービスのかたちが「地域共生社会」と言えるのかもしれない。

この新たなサービスに向かって我々ができることは何なのか？

情報社会と言われる現代社会の中で、様々な出来事が私たちの目や耳に飛び込んでくる。とりわけ格差社会と言われる近年、これまで知られなかった厳しい現実が露わとなり、この複雑で多様な現代社会に警笛を鳴らしている。しかし、情報はその情報の受け手側の心の構えで、時にはあっさり切り捨てられ泡のごとく消え失せてしまう。また、その意味も受け手側の価値観で大きく変わる。

我々社会福祉法人は、地域に対して法人の「見せる化」を積極的に行うことが大切なのは周知の事ではあるが、他方で社会福祉法人が地域からの情報をどのように「見る」のか、その視点も重要となる。法人内でどのような価値観をもって地域を見て捉え、ニーズを探り、そのニーズに対して何を実行していくのか。

平成29年度は、農業を軸とした新たな取り組みをもって地域との関わりを深めたが、これは地域共生社会に向けた法人内の新たな価値観を生み出すための第一歩と考える。

1. 法人本部

平成29年度は、中期運営計画の4期目として事業を進めていくが、「人材育成」「財政」「組織改革」「事業推進」の各プロジェクトを新たに法人全体として取り組み進めていく部門として、「人材育成・研修」「事業推進」「地域推進」の3部門に再編して取り組んだ。

また、4月にはグループホームラベンダーの開所、6月には就労継続支援B型

事業所 工房 結の増築部分の開所、7月には余暇等多目的利用を見据えた和家の開所と続き、平成30年1月には、ラベンダー2階を拠点とした地域生活支援拠点等事業が開始するなど事業展開が続いた。

(1) 人材育成

○法人内研修の充実

- ・南山城学園の職員と一緒にケース検討会や事業所見学会を企画し、実施することができた。互いの事業所を見学することで、単に見学先の様子を知るだけでなく自分たちの事業所の環境等を改めて見つめ直すよい機会となった。また、職員間で交流を深めることもでき、職員育成という視点からも有意義な時間であった。
- ・医療の観点からは精神科医の稲垣先生を招いて行動障がいや薬の効果について学び、また、どうすれば利用者本位サービスを実現する職員になれるかというセルフマネジメントを学ぶ等、幅広い分野に渡る様々な研修を実施することができた。
- ・年2回の法人内研修では、取り組んでいる農業等の具体的な取り組みを発表するだけでなく、保護者の想いやいこま福祉会の歴史等についてお話しいただく機会を持った。いろいろな人からお話を聴かせていただく中で職員が刺激を受けたり自身の支援について振り返ることができ、職員の人間力の向上を図ることができた。

○人材確保

- ・インターンとして、農福連携をテーマにした企画を6月と10月に実施し、20数名の学生が参加した。また、奈良大学連合インターンシップ制度にも参加し、農業体験、児童のサマースクールを軸にした企画を行い、2名の学生が参加した。
- ・介護等体験や社会福祉士の実習に来る学生に対しても実習内容を見直し、良い人材はアルバイトに繋げることができた。

(2) 事業推進

○暮らしプロジェクト

- ・今年度は「ラベンダー開所後経過報告」「新規男性グループホーム物件確保」「福祉ホーム利用者地域移行」の議題について重点的に検討を行った。新規男性グループホームの確保には至らなかったが、候補物件を元に利用者のマッチングを福祉ホーム利用者を含めて検討を行った。また、現在使用している物件を含めてどのような活用方法があるのかを検討した。福祉ホーム利用

者の地域移行については一人暮らしを希望されている方にイメージ作りを行っていただくために cocua で一人暮らし体験の計画を立て、実施した。

○余暇プロジェクト

- ・休日開所のプログラムやアフター5、ふうしゃの会の企画等余暇に関する行事、イベントについて検討を重ねてきた。また和家を開所したことにより、和家の活用方法や余暇企画への広がり等にも検討を行い、利用者が楽しみに過ごせる時間の設定に取り組んできた。

○農業プロジェクト

- ・新しく活動を始めた高山「風のファーム」での取り組みを始め、月1回の会議で各ファームの進捗や野菜栽培の状況確認を行うことができた。定期的集まることで情報共有をしながら、特に農福連携に関する法人としての方向性の確認・周知を行うことにもつながった。
- ・年間を通してほぼ毎日各ファームで農作業に従事することができた。活動するメンバーの特性に合わせた作業の工夫や環境面での整備を丁寧に取り組む中で出てきた課題に一つずつ向き合ってきた。その結果、自分から進んで農作業に取り組むメンバーが増え、収穫や販売等で目に見える成果が出ると、より充実感を得られることが分かった。
- ・加工品について、年間を通してドレッシング（玉ねぎ・黒豆）やきつまいもジャム等、採れた野菜を加工して商品化し販売することができた。学校給食にも参入することができ、学校給食センターを通して地域の子どもたちに安心安全な食事を提供するための足がかりを作ることができた。

○働くプロジェクト

- ・職員間で利用者の工賃向上や売り上げ増加に向けての方策を検討した。主に売り上げ増加に向けての検討について、工房結では優先調達推進法での市役所からの名刺の受注やカレンダーの製造販売、ゆうほ〜では飽きのこないメニュー設定やレイアウトの見直し、ムーランではインターネット販売などを実施した。
- ・工賃面では利用者の頑張りを評価しモチベーションアップにつなげる為、賞与とは別に夏と冬に一時金の支払いを実施した。ただし、工賃向上に向けての明確な基準作りについては引き続き検討が必要である。

(3) 地域推進

○第3回いこいこまつり

- ・近隣住民の参加も多く、約 1,000 人規模の来場があった。課題としていた駐車場についても近隣のドラッグストアの駐車場、大瀬中学校の駐車場を来場者用に、生駒高校、壺分小学校、近隣の福祉団体にも協力していただき、スタッフ、ボランティア、出店者を分散させて駐車することができた。
- ・出店者数も模擬店で 25 ブース、ワークショップで 9 ブースと多くの団体の協力を得ることができた。また、「こま市」によるフリーマーケットもバラエティに富んでおり、多くの地域の方々に来場いただくことができた。

○いこま福祉会フォーラム

- ・地域啓発を目的に検討してきたが、テーマを絞り込むことが出来ず、今年度も延期することとなった。

○地域生活支援拠点等事業

- ・先駆的に進めている地域への視察や講師に招いての研修会など準備を進めながら、平成 30 年 1 月にラベンダーを拠点にして事業をスタートさせる。
- ・詳細については、ラベンダー等の報告にあわせて記載している。

2. 法人事務局

2. 法人事務局

(1) 総括

社会福祉法人制度改革に基づく新制度への移行に伴う整備を前年度より進めてきており、新役員、新評議員の選出と任期の開始、それに伴う定款細則、役員報酬規程等の整備を行った。

(2) 職員体制

- ・事務長 1名
- ・経理係長 1名
- ・総務事務員 常勤 1名（支援センター事務員兼務1名）
非常勤1名（福祉ホーム事務員兼務）
- ・経理事務員 非常勤1名（かざぐるま・かざぐるまえーる事務員兼務）
サポート1名

(3) 重点方針及び事業内容 取組結果

○社会福祉法人制度改革に基づく新制度への移行

- ・新役員、新評議員の任期開始。それに伴う定款細則、役員報酬規程等の整備を行う。現況報告の作成、福祉充実計画の承認、ホームページへの公開も実施している。

○厨房の業務委託

- ・理事、評議員も参加して、プレゼンテーション、事業場の見学、試食等の審査を進め総合的に評価した結果、ウオクニ株式会社との業務委託契約の締結を行うこととなった。

○人材確保

- ・新卒採用について、マイナビの就職フェア等にも参画し、施設見学にも来所する学生もいたが、最終結果として、男性1名の採用のみだった。
- ・奈良大学連合のインターンにも参加し、2名の学生のインターン（10日間）を実施する。また、農業イベントを通じたインターンでは、約20名の参加があった。
- ・介護等体験や社会福祉士の実習に来る学生に対しても実習内容を見直し、良い人材はアルバイトに繋げることができた。
- ・GH、福祉ホームの介護職員の募集を法人HP（indeedの活用）、有料求人媒体（an等）で募集を行っており、応募は多数来ているが、継続した雇用に繋がらないなどの課題もある。

(4) 情報発信の状況

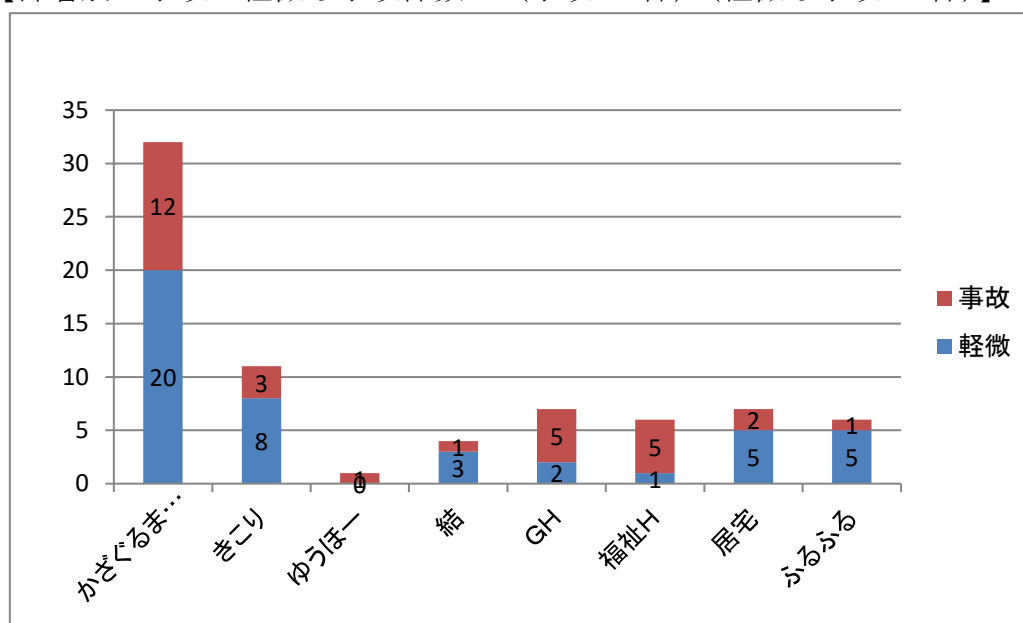
- ・法人全体の広報としてかざぐるま通信を11月に発刊し、前回は手渡すことができなかつたいこいこまつりでも、当日パンフレットと一緒に手さげ袋に入れて渡すなど改善して周知することができた。
- ・ホームページも各班の更新を定期的に行い、イベントや研修なども掲載し常に動きのある発信を行った。また、求人についてもホームページを活用し、サポート職員の求人には効果が高かつた。

(5) リスク対応の状況

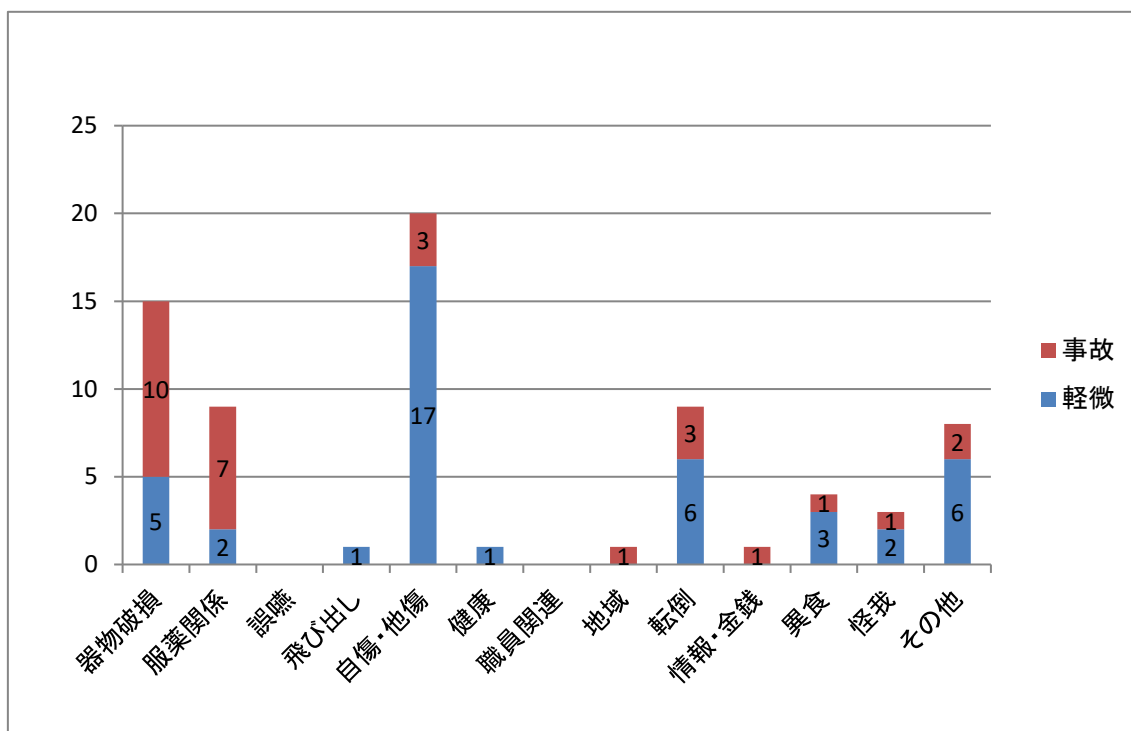
○リスク委員会

- ・リスクや事故の検証・分析を掘り下げて行うために、平成29年度よりリスク委員会を各部署で開催し、半年に1度各部署の管理職とリスク委員が集まり、リスクや事故の報告や情報共有・検討事項等について会議を行った。
- ・各部署でリスクについて話し合うことで事故の検証・分析等に繋がるものが出来たが、全体の課題としてヒヤリハット報告書の提出が少ないことが課題として挙がっていた。またヒヤリハット報告が事故に繋がっているような報告もあったため、全体会議の中でヒヤリハットの目的を再度確認している。
- ・法人全体の事故件数は、30件と昨年度より4件増加している。軽微な事故についても44件と昨年度より8件増加している。昨年度に比べると器物破損が大きく増えている。また昨年度にはなかつた異食（果物の皮ごと食べてしまうなど）という内容が増えていた。反対に自傷・他害・転倒については昨年度起きた事故の改善を生かした部分もあり減少していた。

【部署別 事故・軽微な事故件数 (事故30件) (軽微な事故44件)】



【項目別 事故・軽微な事故件数（重複している項目もあるため、事故件数の総数とは異なる）】



*各事業所のヒヤリハットの報告は参考資料のとおり。

○車両事故

- ・法人全体での車両事故が、年間 19 件発生しており、そのほとんどが壁面や柱などへの接触による自損事故によるものであった。生駒の土地柄狭い道も多いが駐車場など敷地内の事故も多いため、安全運転に対する意識を変えていくことが必要である。

(6) 地域との交流・連携の状況

○いこいこまつりの実施

- ・近隣住民の参加も多く、約 1,000 人規模の来場があった。ステージでは、地域の保育園の園児による発表や生駒消防署の職員の紙芝居とダンス、大瀬中学校や生駒高校吹奏楽部の演奏などもあり、地域が一体となってまつりを盛り上げることができた。

(7) 施設設備の状況

○サーバーの導入

- ・IT 関連の助成金申請を利用し、サーバー及びセキュリティ等のリスク管理ソ

フトの導入を計画したが、助成金申請が応募多数で認可されなかったため、最終的には、サーバーの導入のみとなった。

○ドライブレコーダーの導入

- ・交通事故等に対する適正な検証を図るため、また、安全運転の向上を目的に運転評価も行う自動車保険会社が運用するドライブレコーダーの導入を行った。

○長期的な修繕計画に基づく修繕

- ・屋根部の防水修繕については、今年度も専門家に調査を行ってもらい、次年度に繰り越すこととした。門扉周辺の壁面の塗装及び玄関周辺の鉄部の塗装は、補正予算に計上していたが実施することが出来なかった。
- ・かざぐるま及びかざぐるまえーるの大浴場のろ過機の消耗部品の劣化に伴い、急遽補正を組み修理を行った。

3. かざぐるま（就労継続支援B型・生活介護）・
かざぐるまえーる（生活介護）・

3. かざぐるま (就労継続支援B型・生活介護)・かざぐるまえーる (生活介護)

(1) 総括

【全体】

- ・平成 29 年 4 月より班体制や活動内容の見直しを図り、それぞれの特性やできることに着目した活動を実施することができた。
- ・休日開所は、当初の予定通り余暇やイベントの企画を実施することができた。

【かざぐるま】

- ・ほぼ毎日高山「風のファーム」に行き、農作業に従事することができた。障がい重い方も視覚支援を活用する等、スムーズに作業を行う工夫を重ねて行った。
- ・新しく建てた小平尾作業所を活用して、軽作業に真剣に取り組むグループを作り、今まで以上に集中して作業を行う時間を作ることができた。

【えーる】

- ・かざぐるまの近くにある「北山ファーム」を中心に、それぞれの特性に合わせて高山「風のファーム」での活動にも取り組み、軸になる活動の一つとして様々な農作業に従事することができた。

(2) 職員体制

【かざぐるま (生活介護・B型)】

- ・施設長 1 名 (サービス管理責任者兼務)
- ・支援員 常勤 3 名 嘱託 4 名 非常勤 5 名 サポート 2 名

【かざぐるまえーる】

- ・施設長 1 名 (サービス管理責任者兼務)
- ・支援員 常勤 6 名 嘱託 2 名 非常勤 7 名 サポート 1 名

(3) 利用者の状況

【かざぐるま】

①年齢構成 (平成 30 年 3 月 31 日現在)

	20 歳以下	21～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳	70 歳以上	計	平均
男	0	10	8	3	3	1	0	25	36.8
女	0	6	5	4	0	0	0	15	34.6
計	0	16	13	7	3	1	0	40	35.9

②障害の程度 区分認定

	区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
男	0	0	0	2	11	9	3
女	0	0	0	0	3	8	4
合計	0	0	0	2	14	17	7

【かざぐるまえーる】

①年齢構成（平成30年3月31日現在）

	20歳以下	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳	70歳以上	計	平均
男	3	7	5	3	0	0	1	19	32.7
女	0	2	5	2	0	0	0	9	35
計	3	9	10	5	0	0	1	28	33.4

②障害の程度 区分認定

	区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
男	0	0	0	0	0	8	11
女	0	0	0	0	1	1	7
合計	0	0	0	0	1	9	18

※ 新規利用者1名 平成30年3月26日(月)よりかざぐるまえーる利用開始

(4) 重点方針及び事業内容 取組結果

○班体制の見直しと整理

- ・4月より班体制や活動内容の見直しを図り、今まで以上にそれぞれの特性や得意なことを活かした作業活動に取り組むことができた。今まで作業に取り組む時間が短くなりがちだったメンバーも、環境を整理することで長い時間作業に取り組める・穏やかに安心して活動できる等のプラスの変化が見られた。

○農作業・グループ活動の積極的導入

- ・農作業を軸に活動する“いぶき”を中心に、他の班でも積極的にファームへ行き、年間を通して農作業に従事することができた。班の枠を超えて農作業が得意なメンバーが集まって一緒に作業を行う場面も多く、それぞれが得意な活動を中心に楽しんで農業に取り組むことができた。また、新たに活動を開始した高山「風のファーム」では、スケジュールを提示する・ボール等のツールを使ってすべき作業を明確化する等の工夫をすることによって、障がい重い方もスムーズに作業を行うことができています。
- ・新しく活動場所として開所した小平尾作業所では、軽作業に真剣に取り組む

グループを結成し、目標を決めて今まで以上に集中して作業を行う時間を作ることができた。ざわざわした環境では落ち着いて作業ができない方が積極的に集中して活動する姿が見られ、嬉しい変化もたくさん確認できた。

○休日開所の継続的实施と内容の充実化

- ・当初の予定通り、年間を通して余暇やイベントの企画を実施することができた。グループごとに遠出をしたり、手作りごはんを楽しんだり、参加メンバーの顔ぶれや天候に合わせたメニューをその都度企画する中で、一人ひとりのいい笑顔や積極的な様子等をたくさん見ることができた。
- ・個別の配慮が必要なグループと、集団活動の中で楽しみながら活動するグループに分けて、可能な限り参加するメンバーの特性や相性を考慮した余暇プログラムの提供を行った。

(5) 情報発信の状況

- ・かざぐるまの機関誌を、予定通り年3回（7月・10月・2月）発行することができた。
- ・法人HPにて、定期的に各グループの活動やイベントでの様子を更新して情報を発信することができた。

(6) リスク対応の状況

- ・かざぐるま／えーるでは、ヒヤリハットの提出が少なくなっていることに着目し、職員会議にて“ヒヤリハットになりえる事象”を書き出し、リスクにつながることに関する共有を図った。片付けや環境整備等で解決できることから順に、年間を通して少しずつ状況改善に努めた。
- ・えーるでは、他傷の事故が多く発生しており、支援方法の見直しや環境整備に取り組んだ。また、職員の連携不足によるヒヤリハットも多く挙がっていることから、日々の業務内容の整理や情報共有のあり方等、工夫を重ねている。

(7) 職員育成

○施設内研修

- ・年間を通して登丸和子先生によるスーパーバイズの機会を設け、個別もしくはグループでそれぞれの支援に関する課題や取り組みについてアドバイスをいただいた。特に、環境整理や作業の組み立て方について具体的なヒントをいただくことができた。
- ・自閉症eサービスの中山清司先生には、自閉症に関する支援について実際の

関わり方を振り返りながら学ぶケースカンファレンスで現場に即したアドバイスをいただいた。全 4 回のうち、最終日は職員が取り組みについて発表する“報告会”を開催することで職員自身の成長にもつながった。

- ・南山城学園「翼」との合同勉強会を企画した。互いの事業所を見学し、今取り組んでいるケース報告を行う機会を設け、職員同士の交流を深めることができた。
- ・言語聴覚士の松下真一郎先生には、「医療面から見た自閉症を知る」というテーマでご講義いただいた。また、摂食指導として具体的に直接介助の方法や飲み込み、嚥下等について課題が出てきた際に専門的なアドバイスをいただくことができた。
- ・元弘済学園園長の飯田雅子先生には、行動障がいや自閉症の方々の具体的な支援について直接お伺いしてアドバイスをいただく機会を設けた。それ以外にも必要に応じて電話や FAX にてご指導いただいた。

○他施設見学

【農業関係】

- ・『社会福祉法人白鳩会』『鎌田ファーム』
水耕栽培：『株式会社サニーリーフ』『大阪府立西浦支援学校』『アンアクアファーム』

【事業所関係】

- ・『社会福祉法人南山城学園（翼）』

(8) 地域との交流・連携の状況

- ・やまびこネットワーク（壱分小学校区市民自治協議会）の運営委員会に参加する中で、5月と10月にさつまいも収穫のイベントを企画してたくさん子どもたちに参加してもらうことができた。また、昨年引き続き防災訓練や雪あそび等のイベントについても準備の段階から携わり、地域の方々と一緒に参加することで地域の方々との関係を深めることができた。
- ・近隣の学校との交流について、壱分小学校 1・3・5 年生がかざぐるまとえーるの作業場面を見学して質疑応答を受ける時間を持った。また、生駒高校との交流として1年生が数回に分けかざぐるまを見学し、知的障がいのある方々の作業や生活について講義も交えながら一緒に学ぶ機会を作った。
- ・壱分小学校や地域の方々の協力のもと、“第3回いこいこまつり”を開催することができた。通所している障がいのあるメンバーはジュース販売の店番やワークショップの講師役等、様々な役割を担い、参加する側という立場だけでなく地域の方々と一緒にまつりを創りあげる側としても障がいのある方々

が活躍できる場面をたくさん作ることができた。

- ・12月にはかざぐるまに関わって下さったボランティアの方々を喫茶ゆうほーにお招きし、茶話会を開催した。昔からボランティアとして関わってくださっている方も多く、皆さんとゆっくりとお話することで、交流を深めることができた。

【ボランティアとして活動くださった方々】

<班別／月別延べ時間>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	班別 小計
いぶき	48.25	25	26.5	10	9	3.5	18.5	22.25	12	12	9.5	17	213.5
くらふ と虹	114.5	118.25	92.5	96.25	49.25	100	115	82	45.5	76.25	84.5	87	1061
なかま	39	37	42	68	41.5	50	45.5	42	43	51	41.75	56	556.75
ひかり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
かなで	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
笑風	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	1	0	301.5	0	0	0	0	0	302.5
月別 小計	201.75	180.25	161	174.25	100.75	153.5	480.5	146.25	100.5	139.25	135.75	160	2133.75

<班別／月別延べ人数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	班別 小計
いぶき	14	9	8	3	3	3	6	8	4	4	5	5	72
くらふと虹	24	25	23	25	12	22	26	21	13	16	19	22	248
なかま	7	7	9	10	7	9	8	8	8	9	7	10	99
ひかり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
かなで	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
笑風	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	1	0	54	0	0	0	0	3	58
月別 小計	45	41	40	38	23	34	94	37	25	29	31	40	477

・出店状況

土日	4月	こま市出店 たんぽぽHANAまつり 滝寺花まつり	
	5月	ふろーらむ出店	
	6月	生駒市立病院出店 生駒市環境フェスティバル	
	7月	お松の宮出店	
	8月	発達支援講座出店 どんどこまつり	
	9月	生駒高校文化祭出店 福祉と健康の集い出店 スマイルリボンフェスタ出店 将棋フェスティバル出店 いこまいい街にぎわいフェスタ出店	
	10月	ふろーらむ出店 帝塚山地区秋祭り文化交流会	
	11月	奈良西養護学校文化交流会出店 農業祭出店	
	12月	障がい者週間出店	
	3月	福祉センター祭出店 森あそびフェスタ出店	
	平日	9月	桜ヶ丘幼稚園出店
	定期		アントレ出店(月1～2回程度) 福祉センター販売(週1回程度)

4. 喫茶ゆうほ一・工房 結
(就労継続支援B型)

4. 喫茶ゆうほー・工房 結（就労継続支援B型）

（1）総括

【喫茶ゆうほー】

- ・生駒市内の農家さんやいこま福祉会の各ファームで作った野菜をふんだんに使った、安心安全でおいしい食事の提供ができた。
- ・テイクアウトメニューの開発について具体的に取り組むことができなかったが、冷麺等の“季節の麺”のメニューを取り入れ、工夫して提供することができた。

【工房 結】

- ・環境面では夏に小平尾町に事業所を移転し、新たな場所での活動がスタートしたが、事前に環境整備を丁寧に行ったこともあり、大きな混乱なく作業に取り組むことができた。
- ・紙すき作業については、メンバーが主体となり毎日目標枚数を決めて真剣に取り組む、秋以降には少なくなっていた在庫も十分確保することができた。また、エイト紙工さんに指導を受けているメンバーが中心となり、紙すきの質の向上にも着手することができた。

（2）職員体制

- ・施設長 1名（サービス管理責任者兼務）

【喫茶ゆうほー】

- ・支援員 嘱託 2名 非常勤 3名 サポート 1名

【工房 結】

- ・支援員 常勤 1名 嘱託 1名 サポート 1名

（3）利用者の状況

【喫茶ゆうほー・工房 結】

①年齢構成（平成 30 年 3 月 31 日現在）

	20歳以下	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳	70歳以上	計	平均
男	1	3	2	4	1	0	0	11	33.3
女	1	2	2	1	1	0	0	7	37
計	2	5	4	5	2	0	0	18	35.7

②障害の程度 区分認定

	区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
男	1	0	1	2	4	2	1
女	0	0	1	1	5	0	0
合計	1	0	2	3	9	2	1

※ 新規利用者1名 平成30年3月22日(木)より工房結利用開始。

(4) 重点方針及び事業内容 取組結果

【喫茶ゆうほー】

○“安心安全でおいしい味付け”の提供

- ・生駒市内の農家さんやいこま福祉会のファームで作った野菜をふんだんに使い、野菜たっぷりの身体に優しい、安心安全な食事の提供ができた。

○利用者を主体とした喫茶運営及び厨房業務の確立

- ・厨房業務やレジ打ち等にも積極的に取り組むことによって少しずつできることが増え、メンバー自身のやりがいや充実感につながっている様子が見られた。ただし、厨房の業務マニュアルの作成には至らなかった。

○不要なコストの削減

- ・食材の費用が少しずつ上がっていたため、食材の調理方法やメニュー内容を見直し、できるだけ食材をうまく使いきれよう工夫を重ねた。

○メニューの見直し・テイクアウトメニューの開発

- ・メニューの大幅な見直しは着手することができなかったが、冷麺等、季節に合わせた麺料理を新たに提供することができた。テイクアウトメニューについても話し合いは行ってきたが、具体的なメニュー開発はできなかった。

【工房 結】

○環境面の整備と利用者主体の活動の組み立て

- ・すべき作業や活動が明確になっていることが重要であることに着目し、スケジュールを明確化するよう取り組んだ。結果的に環境が整理され、自閉症の特性が強いメンバーも落ち着いて自身の持てる力を発揮できている。
- ・紙すき作業で基本的に全行程をメンバーでこなし、目標枚数を決めて集中して取り組むことができた。

○ハガキ・名刺の在庫確保と質の向上

- ・事業所の移転のため、3ヶ月ほど紙すき作業に取り組めない期間があったが、秋以降は新しい場所で紙すき作業に集中して取り組み、例年と同じだけの在庫を確保することができた。また、エイト紙工での経験があるメンバーを中心に日々紙すきの技術を磨き、紙の質の向上につなげることができた。

○カレンダーの生産販売

- ・絵本作家のみやざきひろかず氏に依頼し、カレンダーを作成した。450部作成し、約220部を販売することができた。

(5) 情報発信の状況

【全体】

- ・法人HPやフェイスブックにて、毎週定期的に事業所での活動やイベント等について、報告することができた。
- ・班会について、2ヶ月に1回定期的に実施することができた。

【工房 結】

- ・青丹学園や福祉センター等で紙すき体験の機会を持つことで、牛乳パックを使用した手すき作業について知っていただくことができた。

(6) リスク対応の状況

【喫茶ゆうほー】

- ・接客業ということもあり日々の忙しさに追われ、活動の振り返りが不十分になっている現状がある。まずはヒヤリハット用紙を記入することから定着させていくことが早急の課題である。

【工房 結】

- ・服薬忘れや備品が壊れるといったヒヤリハットが見られた。システムを決めたり備品を買い足す等すぐに改善できるものは早急に対応したが、職員の引き継ぎ不足や不注意によるものも多く見られたため、職員間での業務整理や情報共有のあり方等、改善が必要である。

(7) 職員育成

- ・日々の活動の中で気になったことや課題等を、毎月行う会議の中で共有し、出来る限り職員間での意識統一を図ったが、不足している面もあった。
- ・事業所として取り組む必要のあるケースについては先延ばしにせず、その都度関係職員で相談しながら前向きに取り組むことができた。

(8) 地域との交流・連携の状況

【喫茶ゆうほー】

- ・高山や菜畑の農家さんと野菜の購入等を通してたくさんやりとりをさせていただき、よい関係を築くことができた。
- ・生駒市デイサービスセンター長楽へ訪問し、メンバーとの交流の機会を持つことができた。

【工房 結】

- ・毎月 1 回、小平尾町の人権文化センターにて行われる『たわわ食堂』にメンバーと職員が継続して参加した。後半には、結のメンバーにおかず一品を任せていただけることになり、いこま福祉会のファームで獲れた野菜を使うことも多く、地域の方々とメンバーと一緒に過ごすことで障がいのある方々のことを知ってもらえるよい機会となった。
- ・年に数回、『エイト紙工』へ実習に行き、紙すき作業に関することを直接指導いただくことでメンバー・職員の技術に関するスキルアップと品質向上に努めた。
- ・6月に青丹学園での授業の一環として、紙すき体験を行った。介護を学ぶ学生と直接お話ししながら、積極的に楽しんで紙すき作業を教えるメンバーの姿が見られた。

【ボランティアとして活動くださった方々】

<班別/月別延べ時間>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	班別小計
工房 結	45.75	47.5	49.25	43.25	14.75	41	32.5	41.75	26.75	26.75	18.5	25.75	413.5

<班別/月別延べ人数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	班別小計
工房 結	10	11	12	11	3	9	8	10	7	5	5	7	98

5. きこり（生活介護）

5. きこり（生活介護）

（1）総括

- ・今年度より定員 20 名の生活介護事業所として稼働した。そして平成 29 年 4 月には養護学校を卒業された 1 名の利用者を受け入れ総勢 16 名の利用者と活動を行った。作業面では庭先等の環境を整備し様々な作業を実施してきたが、作業の提供方法やグルーピングについて課題があった為、次年度はそれぞれが明確な役割を持って活動に参加できるよう取り組んでいく。

また、落ち着ける環境として休憩室を用意したが、休憩時間に利用者全員が室内で過ごす事に無理が生じた為、次年度は庭先のスペースやツール等を活用しながら休憩時間の充実化と落ち着いて過ごせる環境を再度検討していく。

（2）職員体制

- ・施設長 常勤 1 名
- ・生活支援員 常勤 1 名 嘱託 1 名 非常勤 2 名

（3）利用者の状況

【きこり】

①年齢構成（平成 30 年 3 月 31 日現在）

	20 歳以下	21～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳	70 歳以上	計	平均
男	1	4	1	4				10	33.3
女		1	2	1	2			6	40.5
計	1	5	3	5	2			16	36.9

②障害の程度 区分認定

	区分なし	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
男					1	3	6
女				1	1	3	1
合計				1	2	6	7

（4）重点方針及び事業内容 取組結果

- ・作業面では畑の定期的な利用や室内作業や清掃作業、庭先等の環境整備を行い、利用者が様々な作業グループに分かれて活動を実施した。
ただ、作業内容やグルーピングによっては安定した作業提供が出来ていない時があった。
- ・交流プログラムについては庭先で他班も交えた焼き芋交流や高齢者施設へ赴き音楽交流会を実施した。

- ・利用者が落ち着ける環境として休憩室を設けたが、休憩時間が長い為、手持無沙汰になり不適切な行動を起こす場面が見られた。

(5) 情報発信の状況

- ・法人ホームページにて班内での活動やイベントの様子を掲載した。
- ・かざぐるまと共に機関誌を年3回（6月・10月・2月）発行した。
- ・班会について2ヶ月に1回定期的に実施することができた。

(6) リスク対応の状況

- ・年2回の避難訓練を実施し、避難経路、避難するまでの時間、消火器やAEDの位置等の確認を行った。また、通報訓練も行った。
- ・救命救急講習を受講し、AEDの使用方法、心肺蘇生法等について学んだ。
- ・ヒヤリハット（25件）事故報告（11件）＊軽微なものも含む。ヒヤリハットでは室内をはじめ庭先や駐車場など他の様々な場所でヒヤリとする場面が見られた。特にこだわり行動によるものや点呼の怠りなどによりヒヤリとする場面が見られた。また、職員の不注意によるものが多かったので気を付けていく。事故報告では服薬ミスやてんかん発作による転倒、物損等があった。
- ・平成29年度は職員会議の中でその月にあった事故やヒヤリハット（他部署も含め）を取り出し改善策や意見交換を行った。その中で早急に対応できるものは実施し、検討が必要なものは随時話し合いをしながら改善策を模索した。

(7) 職員育成

- ・登丸和子先生によるスーパーバイズの機会を設け、作業内容に対するアドバイスやそれぞれの支援に関する課題や取り組み等についてアドバイスをいただいた。
- ・自閉症eサービスの中山清司先生によるコンサルテーションの機会を設け、1年を通して自閉症に関する支援について学んだ。実際の関わり方を振り返りながら職員が発表する形式で勉強会を行い、そこで具体的なアドバイスをいただいた。
- ・毎月のケース会議を通して利用者の状況や特性の把握及び共有を行った。

(8) 地域との交流・連携の状況

- ・地域の自治会清掃に参加して交流を深めた。
- ・日中活動の外作業では地域の方に対して積極的にあいさつ等を交わした。
- ・他班と高齢者施設に赴き、音楽会を通じて交流を深めた。

【ボランティアとして活動くださった方々】

<班別／月別延べ時間>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	班別 小計
きこり	24	24	24	28	24	24	28	30	12	18	18	24	278

<班別／月別延べ人数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	班別 小計
きこり	4	4	4	4	4	4	3	5	2	3	3	4	44

6. 生活支援センターかざぐるま（相談支援）

6. 生活支援センターかざぐるま（相談支援）

（1）総括

平成 29 年度の相談件数は 4,560 件と昨年を上回る件数となっており、相談実人員も 310 名と約 20 名の増加となっている。中でも家族、主介護者の病気、死去といった大きな変化が起こったケースも多く、本人の生活を支える支援の組み立てや緊急事態に伴う調整等が発生してきたこと、社会生活におけるトラブルとして警察や司法関係と連動して動く必要があるケースなど相談内容は多岐に渡り、他機関との連携を図りながら関わるが多くなってきた。こうした状況に伴い、今後の生活環境の選択肢の広がりや緊急対応といった環境を整備するためにも地域生活支援拠点等事業の立ち上げ準備や計画相談の地域体制の整備として事業所連絡会議の実施、利用者間のコミュニティ構築のため、支援センター主催企画に加え、じょぶコンといった機会の提供を行ってきた。

（2）職員体制

- ・センター長 常勤 1 名（居宅管理者兼務）
- ・相談支援専門員 常勤 2 名
- ・相談員 常勤 1 名（居宅兼務）、非常勤 1 名
- ・事務員 常勤 1 名（事務局兼務）

（3）利用者の状況

※相談支援 別紙①「平成 29 年度生活支援センターかざぐるま概況報告」

（4）重点方針及び事業内容 取組結果

○サービス等利用計画を遂行するにあたっての地域体制整備

- ・委託相談事業所以外の 2 事業所と定期的に連絡会議を開催。普段の相談業務に関わる疑問や支援手法、事例検討を用いてケース対応の方法などを共有する機会をもってきた。

○地域生活支援拠点等の体制整備

- ・暮らし部会を中心に生駒市における地域生活支援拠点等の整備を検討してきた。課題抽出や大分市、佐野市といった先進地視察、研修会の開催といった経緯を積み重ね、平成 30 年 1 月 15 日より緊急受け入れ機能と暮らし体験の機能からスタートを切ることとなった。

○支援センター主催企画の実行

- ・利用者同士の繋がりから制度の隙間をぬう居場所、企画を発信する機会とし

て支援センター主催企画を実施。また、例年の交流会やグランドゴルフ大会といった行事の他にじよぶコンと題し、就労利用者を集めた食事会企画を2回実施してきた。仕事の悩みを話してみたり、他の方たちがどんな仕事をしているのかなど仕事を継続的に、また色んな選択肢をもって働けるように取り組んできた。

(5) 情報発信

- ・機関誌「かぜいろだより」を平成29年8月と平成30年3月に発行した。また、地域生活支援拠点等の事業所間の情報共有、周知の機会として、8月17日大分市社会福祉法人シンフォニー村上氏を招いた研修会、1月15日には事業所説明会を開催した。

(6) リスク対応の状況

- ・経済的虐待、主介護者の急死などの緊急対応リスクに対して圏域弁護士と連携し、課題解決に努めてきた。

(7) 職員育成

- ・随時、ケースワークを通じた支援方法の検討や各相談員が感じるテーマに沿った研修会に参加。相談支援専門員現任研修の受講や親亡きあとのお金の講座、権利擁護に関する連絡会議等に参加してきた。

(8) 地域との交流・連携の状況

- ・機関誌「かぜいろだより」の情報誌配布や体育協会との連動企画でのグランドゴルフ大会、また支援を通じて学校関係者や地域住民との関わる機会を持ってきた。

【別紙①】

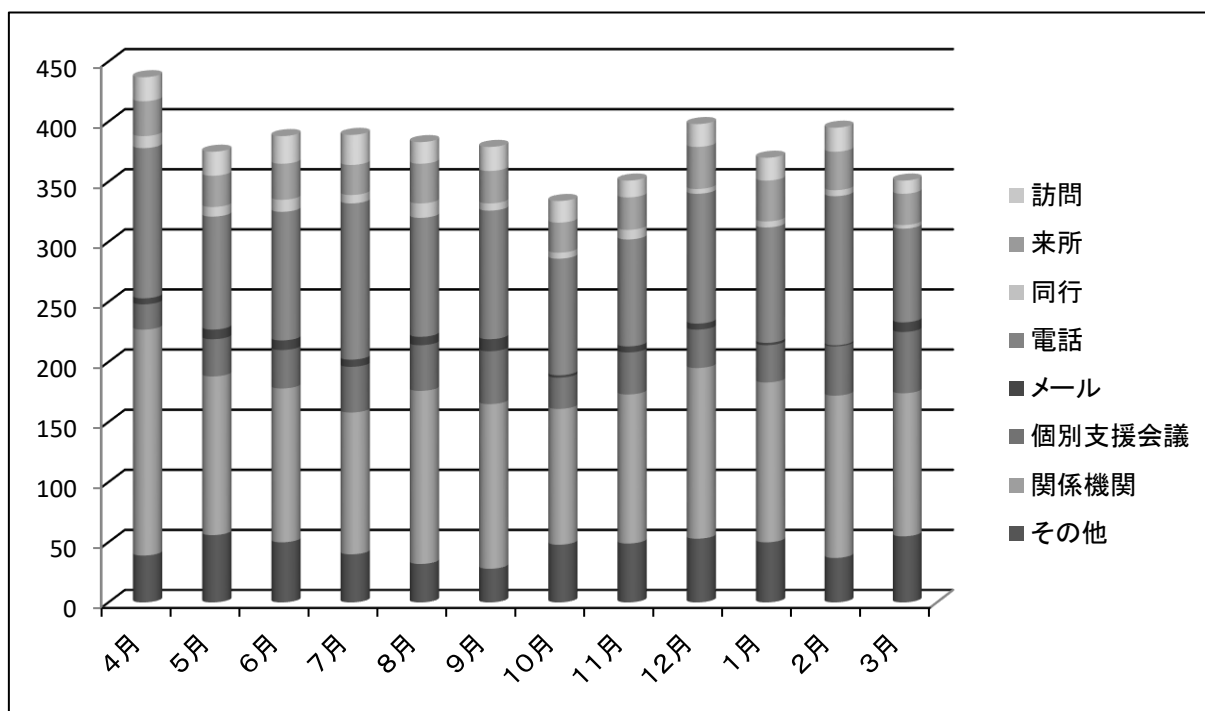
平成 29 年度生活支援センターかざぐるまの概況報告

1. 相談支援業務の概況

(1) 相談支援業務の件数

	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
4月	20	29	10	125	5	21	188	39	437
5月	20	26	8	94	8	31	132	56	375
6月	23	30	10	107	8	32	128	44	382
7月	25	25	7	130	6	38	118	40	389
8月	18	33	12	99	7	38	144	32	383
9月	20	27	6	107	10	44	137	34	385
10月	18	25	5	97	2	26	113	48	334
11月	14	27	8	89	5	35	124	49	351
12月	19	35	4	108	5	32	142	53	398
1月	19	34	5	96	2	31	133	60	380
2月	20	32	5	124	1	41	135	37	395
3月	11	26	3	78	8	51	119	55	351
合計	227	349	83	1254	67	420	1613	547	4560

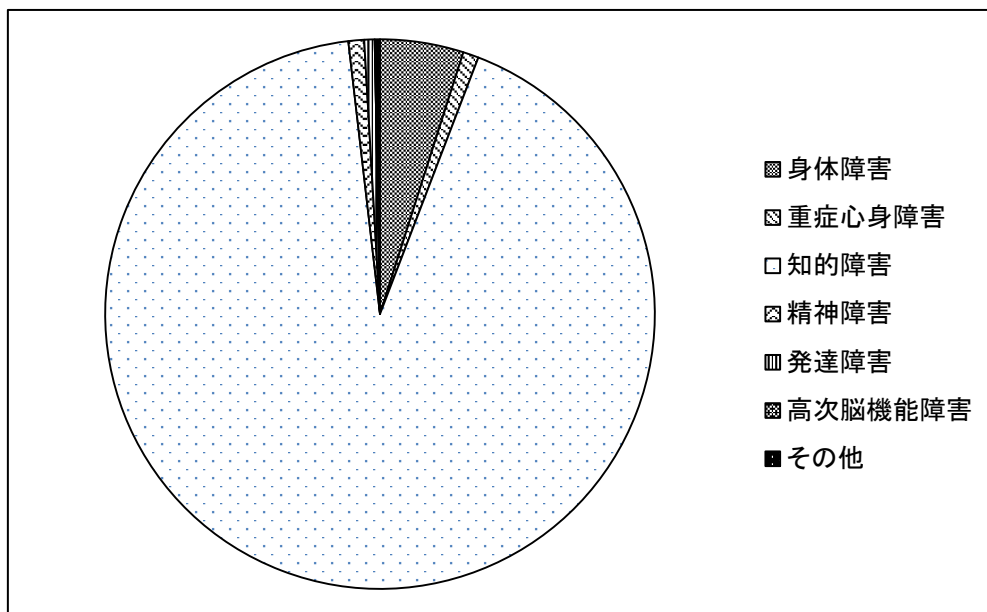
(2) 相談支援業務の件数の推移



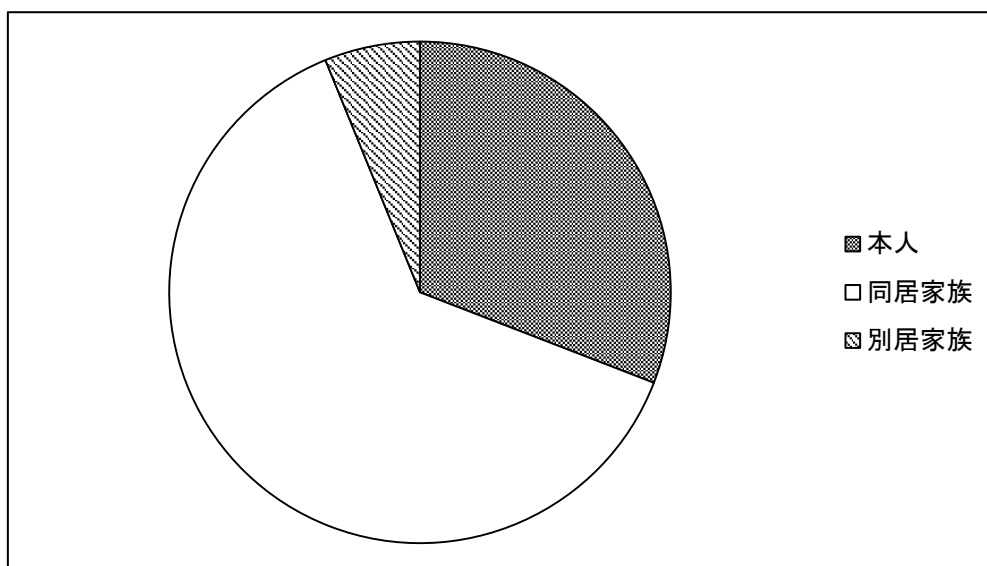
(3)相談支援を利用している障がい者等の人数

	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
障害者	244	13	3	239	2			
障害児	66	3		62	1	3		1
計	310	16	3	301	3	3	0	1

(4)障がい種別の割合



(5)相談・連絡調整者の割合



2. 相談支援業務の内容について

	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や病状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援
件数	1550	50	255	814	10	89
	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	その他
件数	13	56	158	500	78	987

(1)福祉サービスの利用等に関する支援

- ・ サービス等利用計画に関する相談、アセスメント調査
- ・ サービス等利用計画のサービス担当者調整会議の実施
- ・ 障害福祉サービスの利用に関する相談、調整、申請援助
- ・ 障害福祉サービス利用に関する聞き取り
- ・ 障害支援区分認定に関する申請援助、調査
- ・ 障害福祉サービスの内容に関すること
- ・ 障害福祉サービス受給者証に関すること
- ・ 児童福祉法に基づく放課後等デイサービスに関すること
- ・ 市内転入、市外転出に伴う情報提供、申請援助
- ・ 障害福祉サービス等利用援助事業の申請援助
- ・ 利用者負担上限額管理について情報提供、申請援助
- ・ 介護保険への移行に関すること
- ・ 医療機関から退院後の地域生活支援に関すること
- ・ 障害者手帳に関すること
- ・ 日常生活用具、補装具の給付に伴う情報提供、申請援助
- ・ 事業所利用に向けた見学同行
- ・ 事業所退所に関する相談・調整援助
- ・ 児童の長期休暇中の支援に関すること
- ・ 福祉サービス事業所の空き状況等に関する情報収集
- ・ サービス提供事業所との関係性の構築に関する相談、調整
- ・ 訪問看護、訪問リハビリの利用に関すること

など

(2)障がいや病状の理解に関する支援

- ・本人の病状に関する相談
- ・本人の障がい特性の理解の促進
- ・本人の障がい特性の分析、評価に関すること

など

(3)健康・医療に関する支援

- ・本人の状態に見合った医療機関の紹介、連絡調整
- ・本人・家族の健康状態の変化についての相談
- ・病状について医師との連携、連絡、調整
- ・医療機関への同行支援
- ・入院に伴う医療機関、家族、支援事業所との連携、連絡、調整
- ・難病発症に伴う医療機関、支援事業所との連携、連絡、調整
- ・健康維持に関する相談

など

(4)不安の解消・情緒安定に関する支援

- ・一人暮らしの方の生活の不安に関する相談、生活状況の確認
- ・本人の不安定な状況に対しての情緒安定に関する相談
- ・本人の行方不明について
- ・パニック時の他傷行為、自傷行為に関する相談、連絡、調整、緊急訪問
- ・当事者とサービス提供事業者間でのトラブルに関する相談
- ・自殺未遂に対する緊急対応
- ・触法行為への対応相談
- ・ひこもり、不登校、社会参加の難しいケースの相談
- ・警察保護、少年鑑別所への送致に関する相談

など

(5)保育・教育に関する支援

- ・学校の通学に関する相談
- ・養護学校の進路に関する相談
- ・高校進学に関する相談
- ・本人の状況確認のための養護学校訪問

など

(6)家族関係・人間関係に関する支援

- ・当事者間でのトラブルに関する相談
- ・交際相手とのトラブルに関する相談
- ・家族と本人との関係性についての相談
- ・家族の入院、退院に伴う医療機関、支援事業所との連携、連絡、調整

- ・家族状況の安定に関わる介護保険事業所との連携、連絡、調整
 - ・家族・兄弟支援の介入について
 - ・対人関係の構築に関する相談
 - ・地域住民との関係構築に関する相談
 - ・SNSの利用に関するトラブルについての相談
- など

(7)家計・経済に関する支援

- ・障害基礎年金に関する相談、申請同行
 - ・医療費の助成制度に関すること
 - ・生駒市交通費助成に関すること
 - ・国民健康保険に関すること
 - ・特別障害者手当に関すること
 - ・特別児童扶養手当に関すること
 - ・生活保護に関すること
 - ・地域権利擁護事業の利用による金銭管理の進捗状況
- など

(8)生活技術に関する支援

- ・育児に関すること
 - ・引っ越しに関すること
 - ・一人暮らしの生活に関する相談
 - ・生活状況の確認のための定期訪問
- など

(9)就労に関する支援

- ・就職活動に関すること
 - ・高校卒業後の就職先に関すること
 - ・就業・生活支援センターへのケース報告、連絡、調整
 - ・ハローワークへの連絡、調整、同行
 - ・仕事に関する相談、連絡、調整
 - ・就労先へのケース報告、連絡、調整、訪問
 - ・就労の継続に関する相談
- など

(10)社会参加・余暇活動に関する支援

- ・社会生活力を高めるプログラムに関すること
 - ・スポーツ教室等インフォーマルな資源の紹介、連絡、調整
 - ・障がい特性に応じた地域資源の紹介
 - ・ひきこもり状況からの社会参加へ向けた相談
- など

(1 1)権利擁護に関する支援

- ・成年後見人へのケース報告、連絡、調整
- ・成年後見制度の情報提供
- ・地域権利擁護事業に関する情報提供、連絡、調整
- ・親亡き後の本人の権利擁護に関すること
- ・虐待の疑いに関する相談
- ・本人の相続権に関すること
- ・債務整理に関する専門職との相談、調整

など

(1 2)その他

- ・障害福祉サービスの聞き取りにおける日程調整
- ・サービス調整会議における日程調整
- ・生駒市自立支援協議会に関する連絡、調整、会議への参加
- ・西和圏域会議への参加
- ・県主催研修の講師派遣について
- ・機関紙「かぜいろだより」の取材、発行
- ・生活支援センター主催企画に関すること

など

3. 相談支援業務の傾向について

・平成 29 年度の新規相談も約 20 名の件数が上がってきており、転入や在宅で福祉サービスに繋がらずにきたケース、高校生になりケースを移管してきたケースなどが中心に上がっている。

・また、従来関わってきたケースにも家族状況の変化等による動きが多く、特にご家族の大病に伴う支援や、ご家族の死去に伴い今後の生活支援等への緊急調整等も起こってきている。高齢に伴って主介護者の介護力の低下が見受けられることもあり、そうした主介護者に変化が起こることによって本人の情緒に対する影響や、生活支援の調整、整備等が喫緊の課題として挙がっている。

・知的障がいを持つ本人のみに関わらず、同居世帯員に精神疾患、知的障がい、発達障がいなど、複合課題を抱える世帯の相談も継続的にあり、精神障がいの相談支援機関、保健所、発達障害者支援センター、介護保険関係の機関、精神科医療、教育関係機関、児童福祉関係機関（サポートセンターゆう、子ども家庭相談所）等との関わりが多くなっている。

・軽度知的障がい者、発達障がいの方々の対人、地域でのトラブルといった問題やひきこもり、不登校といった課題は近年特に増加傾向にあり、社会生活への参加や糸口を引き出す支援への対応も求められている。不登校児においては、学校での失敗体験、劣等感、自己否定感などを強く感じており、本人が自信を取り戻していくような居場所、人

との繋がり、本人に合わせた学習環境やプログラムなどの必要性が高い。

・窃盗、不審行為、つきまといなどといった触法行為や、異性との交際、人間関係によるトラブルの増加に対して、警察、司法との連携、調整も発生してきている。SNSを通じたやりとりから人間関係のつまづきへ繋がるといったこともあり、それぞれのコミュニケーションにおける行き違いや捉え方によってトラブルに繋がりやすく潜在的で表面化した段階では大きな問題になっていることもある。適切な使用方法ややりとりの方法を踏まえて使用して行く必要性があり、そうしたことを伝えて行くことへの支援の必要性も求められると感じられる。

4. 会議、研修等の参加状況について

(1) 定期的な会議の参加状況

会議名	内容	日時
障がい者地域自立支援協議会担当者会	行政・生駒市内の相談支援事業所が集まり、相談支援事業に関することや困難事例への対応に関する協議・調整、地域ネットワークの構築、情報交換を行う。	5月18日、7月25日、9月26日、11月28日、1月23日、3月27日
障がい者地域自立支援協議会くらし部会	行政・生駒市内相談支援事業所・生活に関わる関係機関から各担当者が集まり、暮らしに関する課題解決に向けた協議、活動を行う。	4月20日、5月22日、6月19日、7月24日、8月28日、9月11日、10月24日、11月15日、12月4日、1月15日、3月15日
障がい者地域自立支援協議会権利擁護部会	行政・生駒市内相談支援事業所・権利擁護に関わる関係機関から各担当者が集まり、障がい者の権利・啓発に向けた協議、活動を行う。	5月16日、7月18日、9月18日、1月16日、3月20日

(2) 研修会等の参加状況

- ・9月27日、10月3日、16日 相談支援従事者現任研修
 - ・6月30日 地域生活支援拠点等事業視察研修 大分市シンフォニー
 - ・1月26日 地域生活支援拠点等事業視察研修 佐野市とちみの会
- ※その他、各関係機関の会議やケース会議、勉強会に随時参加している。

5. 社会生活力を高めるプログラムについて

(1)「かんたん・おいしい・夕食作り」について

18歳以上の知的障がい者を対象に毎月第4土曜日の17時30分から20時30分まで中央公民館で料理教室を行っており、参加者が自立に向けた調理技術を習得するとともに、参加者同士の交流を図るためにプログラムを実施した。

日時	夕食作りメニュー	参加者
4月15日	パエリア、ほうれん草としめじスープ、キャベツのツナ豆サラダ、オレンジゼリー	9人
5月27日	餃子の皮のパリパリピザ、明太子パスタ、レタスのカレー風味スープ、ヨーグルトトライフル	9人
6月24日	肉みそそうめん、はんぺん団子のおすまし、なすのマリネ、抹茶の豆腐ムース	8人
7月22日	かき揚げ丼、オクラのとろとろお味噌汁、豚肉とレタスの梅だれ冷しゃぶ、カフェオレわらびもち	7人
8月26日	お好み焼き、おにぎり、なすときゅうりのさっぱり漬け、フルーツたっぷりサイダーゼリー	8人
10月21日	和風おろしハンバーグ、豆腐とわかめの味噌汁、きのこソテー、揚げ根菜と水菜サラダ、ういろ	8人
11月11日	プデチゲ、もやしときゅうりのナムル、黒糖くるみのホットク	9人
12月9日	チキン南蛮、かぶとベーコンのスープ、ブロッコリーとえびのレモンオイル和え、さつまいものチーズケーキ	7人
1月27日	煮込みうどん、ツナそぼろ巻き、もやしのゴマネーズ和え、豆乳ブランマンジェ	9人
2月24日	エビグラタン、サンドウィッチ2種、ズッキーニのカレースープ、バナナのキャラメリゼヨーグルト添え	7人
3月24日	豚の生姜焼き、豆腐とえのき茸の味噌汁、きゅうりとしらすの酢のもの、根菜ときくらげのごま煮、いちごマフィン	8人

延べ人数 87人

(2)サロン活動

18歳以上の知的障がい者を対象に毎週土曜日の9時30分から17時までサロン活動を行っており、参加者が思い思いに過ごすことができるくつろげる環境を提供するとともに、当事者活動や仲間づくり、情報交換の拠点のひとつとして活動を実施した。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
参加人数	23人	21人	27人	24人	17人	20人	24人	17人	19人	25人	27人	41人

延べ参加人数 285人

(3)生活支援センターかざぐるま主催企画

生活支援センターかざぐるまが主催で、当事者が社会参加の促進や生活に生かせるような企画を考案し実施した。今年度は普段関わりが少ない利用者等にも対象を拡大し、横のつながりを広げて行くことを目的に忘年会企画を実施した。

日時	交流プログラム	参加人数
5月6日(土)	バーベキュー大会(きこり)	15人
12月23日(祝)	忘年会鍋パーティ(和家)	18人
1月20日(土)	たんぼぼ合同グラントゴルフ大会(小平尾グラウンド)	10人

延べ参加人数 33人

(4)じよぶコン

生活支援センターかざぐるまが主催で、就労している方たちが仕事の悩みを当事者間で話し合ったり、いろんな仕事があるということの情報交換を行うことを目的に開催した。

日時	内容	参加人数
7月28日(金)	夕食会(喫茶ゆうほ～)	6人
11月18日(土)	お好み焼きパーティ(和家)	8人

延べ参加人数 14人

(5)機関紙「かぜいろだより」の発行

生活支援センターの役割や機能を周知し、地域に様々な情報を発信するために機関紙を作成している。生活支援センターの活動紹介や障害福祉制度の情報、社会資源の情報等を集約し、平成29年8月と平成30年3月に発行した。

7. デイケアセンターかざぐるま(居宅介護等)

7. デイケアセンターかざぐるま（居宅介護等）

（1）総括

日中活動以外の時間帯での余暇の提供や家族の緊急事態に伴う支援に従事してきた。提供体制の人員不足は継続的な課題である中、休日の余暇支援などには提供量の見直しも図り、歯科の往診、夕方の日中一時支援やアフター5企画の提供に和家を活用するなど、居宅介護支援の見直し整理を図ってきた。

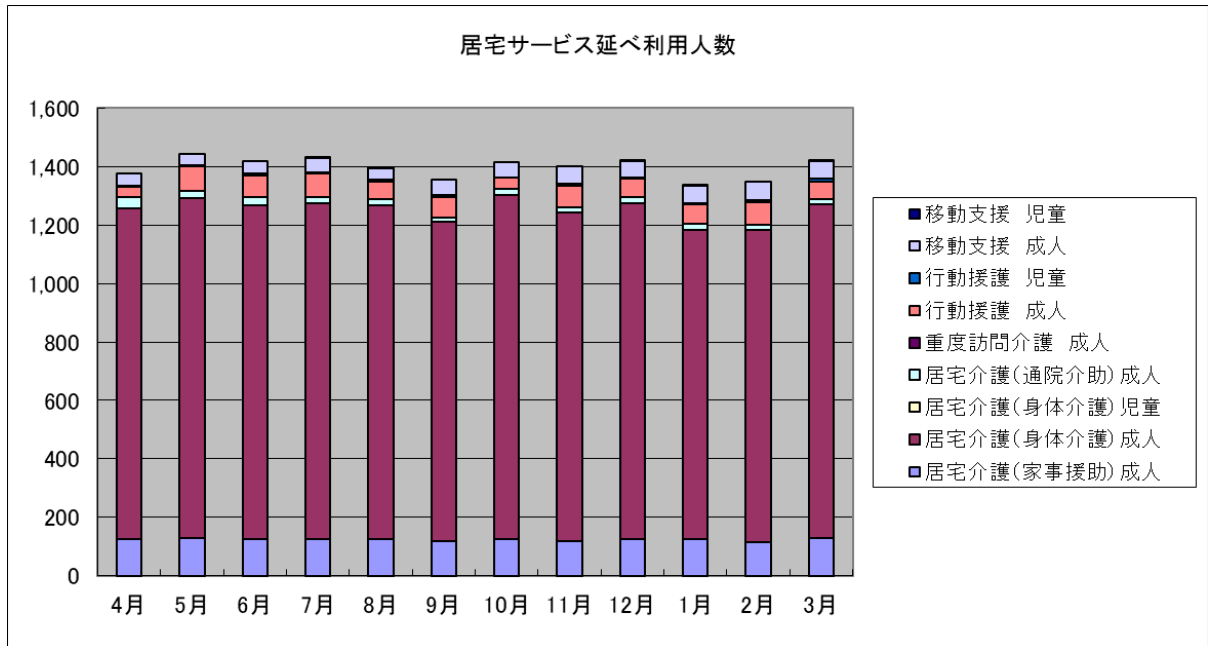
また、2018年度の制度改正を見据えて、計画的に行動援護従事者研修の受講の実施、行動援護計画シートのツール作成などを手掛けてきている。

（2）職員体制

- ・センター長 常勤1名(相談支援専門員兼務)
- ・係長 常勤1名(放課後等デイサービス管理者兼務)
- ・主任 常勤1名
- ・支援員 常勤1名(相談員兼務)
- ・サポート(登録ヘルパー) 約15名

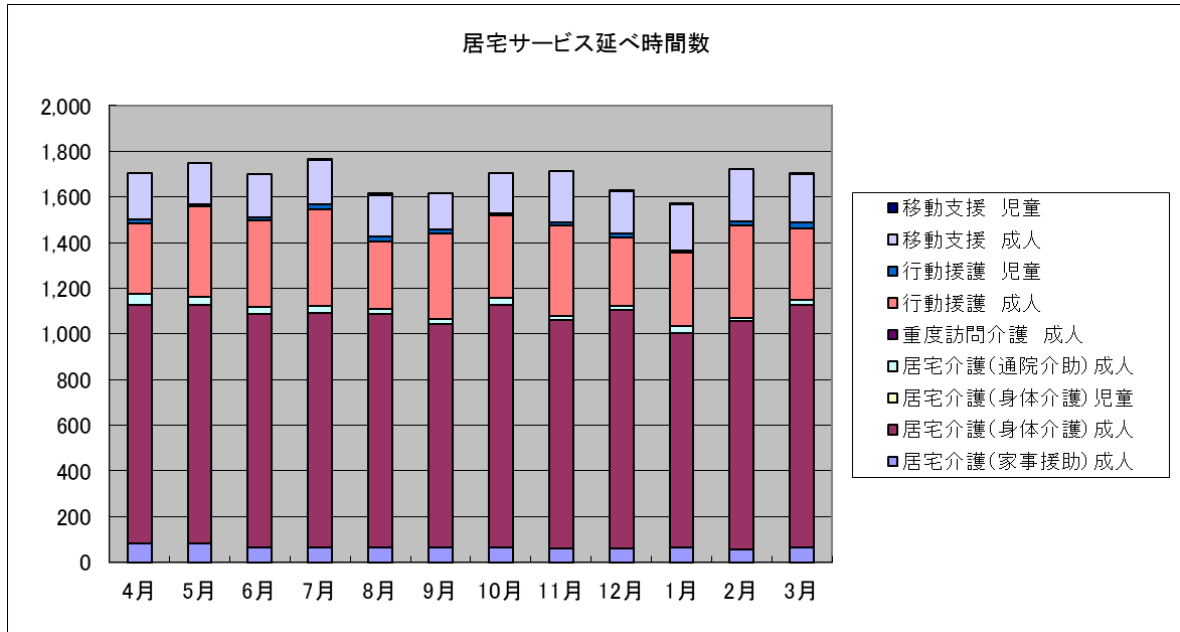
（3）利用者の状況

平成29年度居宅サービス延べ利用人数														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
居宅介護 (家事援助)成人	126	129	127	125	126	119	127	120	125	125	115	130	1,494	96%
居宅介護 (身体介護)成人	1,130	1,164	1,142	1,148	1,140	1,091	1,174	1,123	1,151	1,057	1,069	1,141	13,530	99%
居宅介護 (身体介護)児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
居宅介護 (通院介助)成人	40	25	25	24	21	17	24	17	20	22	16	16	267	68%
重度訪問介護 成人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!
行動援護 成人	35	82	77	78	62	69	36	76	62	68	78	63	786	86%
行動援護 児童	2	5	5	6	5	6	1	5	5	4	8	8	60	82%
移動支援 成人	42	39	41	49	41	53	53	59	55	60	62	60	614	124%
移動支援 児童				1	4				1	1		1	8	42%
合計	1,375	1,444	1,417	1,431	1,399	1,355	1,415	1,400	1,419	1,337	1,348	1,419	16,759	98%



平成29年度居宅サービス延べ時間数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
居宅介護(家事援助)成人	81	81	66	64	65	63	65	60	63	63	58	65	791	98%
居宅介護(身体介護)成人	1,045	1,046	1,022	1,028	1,022	981	1,065	1,000	1,042	942	997	1,064	12,252	100%
居宅介護(身体介護)児童													0	#DIV/0!
居宅介護(通院介助)成人	51	38	33	31	25	22	31	21	20	29	16	18	331	74%
重度訪問介護 成人													0	#DIV/0!
行動援護 成人	309	394	377	425	292	372	360	394	301	322	407	314	4,263	105%
行動援護 児童	16	12	14	22	24	19	8	15	16	10	17	28	198	77%
移動支援 成人	204	179	192	193	180	160	180	224	186	203	229	210	2,337	99%
移動支援 児童				2	8				2	2		2	16	14%
合計	1,704	1,747	1,702	1,764	1,615	1,617	1,706	1,713	1,628	1,570	1,723	1,700	20,187	100%



<日中一時支援延べ人数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ人数	41	49	57	54	38	45	43	49	46	44	46	53	565

(4) 重点方針及び事業内容 取組結果

○人材確保・育成計画、行動援護従事者研修の計画的受講

- ・人材確保については、ホームページを活用した求人等から新規登録ヘルパーが2名となっており、外出支援や福祉ホーム居宅介護支援を中心に業務についている。行動援護従事者研修やOJT等計画的に支援に従事するよう取り組んできたが、人材不足においては継続的な課題となっている。

○余暇ハウスの活用

- ・夕方の日中一時支援やアフター5企画の提供を和家で実施するようになり、日中活動とは異なる環境の下でゆったりとした時間を提供するようになっている。また、他部署でも和家で過ごす時間を取り入れたり、休日や行事ごとなどに活用するなどして利用している。

○業務整理と提供量の検討

- ・休日開所、ふうしゃの会企画などの集団イベント行事などの協力を得て休日の過ごし方を検討し、外出支援の提供量の軽減を図ってきた。また、歯科往診を開始したことにより歯科通院の整理を図ってきたこと、居宅介護事業の

事務所拠点を一本化することで連絡窓口の整理を図ってきた。ただし、外出支援の緊急時の対応等の情報共有等にも課題は挙がり、指示系統の見直しも図って行く必要もある。

(5) 情報発信

- ・アフター5などのイベント企画の様子をホームページなどで公開し、イベント時の様子等を周知することに努めてきた。

(6) リスク対応の状況

- ・行動援護計画ツールを支援の共有事項の必要な対象者中心に作成し、情報共有に努めてきた。また、ヘルパーミーティングでの事例検討などを通じた危険予測等の研修も重ねて行ってきた。
- ・ただし、利用者の状況の変化等に合わせて指示連絡等が共有できていない事故も発生しており、再度事務所からの指示系統の情報整理の必要性も上がってきた。

(7) 職員育成

- ・ヘルパーミーティングを通じた事例検討、危険予測、障がい特性理解等の研修時間に加え、平成29年度は行動援護従事者研修の受講を計画的に実施してきた。

(8) 地域との交流・連携の状況

- ・アフター5や休日余暇企画を行う中で、地域のお店とやりとりしたり、実際に利用をすることを行ってきた。

8. おかりなの家（福祉ホーム・短期入所）・ラ
ベンダー・一歩の家・ポピー・クローバー（共
同生活援助、地域生活支援拠点等・短期入所）

8. おかりなの家（福祉ホーム・短期入所）・ラベンダー・一歩の家・ポピー・クローバー（共同生活援助、地域生活支援拠点等・短期入所）

（1）総括

1年を通して利用者の体調の変化や機能低下、ご家族が体調不良にされるケースが増えてきている。そのため、緊急通院対応やホーム開所日数の増加・緊急短期入所を利用されるケースが減ることはない状況となってきた。

生活支援に対するニーズは年々高くなっているが、その反面では人材不足もあり、採用条件や勤務形態の見直しをおこなったが、理想とする人数の人材確保にはつながらなかった。

（2）職員体制

- ・施設長 1名
- ・主任 常勤2名
※内1名共同生活援助サービス管理責任者
- ・生活支援員 常勤9名、嘱託2名、非常勤1名
※内2名短期入所担当
- ・アルバイトスタッフ 25名

（3）利用者の状況

①年齢構成

【福祉ホーム】

	20歳以下	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳	70歳以上	平均年齢
男			5	3	2	1	1	47.2
女		1	4					32.8
計		1	9	3	2	1	1	43

【グループホーム】

	20歳以下	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳	70歳以上	平均年齢
男				6				43.8
女		2	6	7	1			40.3
計		2	6	13	1			39.8

②障害の程度 区分認定

【福祉ホーム】

	区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
男				1	4	4	3
女					1		4
合計				1	5	4	7

【グループホーム】

	区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
男					1	3	2
女					3	7	6
合計					4	10	8

(4) 重点方針及び事業内容 取り組み結果

福祉ホーム

○福祉ホーム入居者の地域移行の検証

- ・福祉ホームに入居されている方で一人暮らしを希望されている方に cocua を利用した一人暮らし体験を利用していただいた。初めての経験ではあったが、将来の生活のイメージ作りにもつながった様子であった。

○余暇支援の充実

- ・グループホーム入居者の方を含めて元旦に新年の挨拶や食事会などを和家で行うなど今までには出来なかった余暇支援を行うことが出来た。教室のようなマンツーマンではない少人数の余暇なども行って今後の余暇の方向性を検討した。

【稼働率 (%)】

	開所数	やまぼうし		あおぞら		わかくさ		ひまわり		合計	
		4名	91%	6名	93%	4名	50%	6名	73%	20名	78%
4月	30	110	91%	169	93%	60	50%	132	73%	471	78%
5月	31	114	91%	172	92%	62	50%	138	74%	486	78%
6月	30	113	94%	174	96%	60	50%	129	71%	476	79%
7月	31	112	90%	171	91%	62	50%	130	69%	475	76%
8月	31	111	89%	172	92%	60	48%	133	71%	476	76%
9月	30	109	90%	168	93%	59	49%	125	69%	461	76%
10月	31	115	92%	174	93%	62	50%	132	70%	483	77%
11月	30	109	90%	172	95%	60	50%	132	73%	473	78%
12月	31	114	91%	172	92%	61	49%	133	71%	480	77%
1月	31	108	87%	152	81%	62	50%	130	69%	452	72%
2月	28	103	91%	163	97%	56	50%	123	73%	445	79%
3月	31	114	91%	173	93%	58	46%	134	72%	479	77%
合計・平均		1332	91%	2032	92%	722	49%	1571	71%	5657	77%

- ・旅行等の行事や入居者の入院等によって昨年度より利用日数が減少しているが大きく変動はなかった。
- ・わかくさユニットに関しては緊急短期入所を受け入れることが出来るように満床とはしておらず、稼働率としては低くなっている。

ラベンダー・一步の家・ポピー・クローバー（共同生活援助、地域生活支援拠点等

○ラベンダー入居者生活支援の基盤作り

- ・入居前からご家族や関係者で生活支援の組み立てについて話し合いを行っていたこともあり、入居者の方々もホームでの生活に慣れてきてくださり、集団生活の中で折り合いを付けながら生活をしている。

○一步の家/たびだちの家の建物建築助成金申請

- ・新規物件の話もあったが、確定するには至らなかった。

○地域生活支援拠点等事業の整備

- ・生駒市自立支援協議会や生駒市との協議を重ね、平成30年1月15日より、“地域生活支援拠点等事業の緊急時受け入れ”と“体験”の機能についてラベンダーを拠点として実施している。緊急時の受け入れの実績はないが、一人暮らし体験については問い合わせも含め実際に体験される方もいた。

	開所数	一步の家		ポピー		クローバー		ラベンダー		合計	
		6名	80%	6名	77%	6名	94%	4名	36%	22名	75%
4月	30	144	80%	139	77%	170	94%	44	36%	497	75%
5月	31	150	81%	136	73%	173	93%	66	53%	525	76%
6月	30	150	80%	134	74%	169	93%	72	60%	525	79%
7月	31	149	80%	132	70%	175	94%	65	52%	521	76%
8月	31	149	80%	131	70%	171	91%	68	54%	519	76%
9月	30	144	81%	132	73%	170	94%	71	59%	517	78%
10月	31	153	82%	146	78%	175	94%	74	59%	548	80%
11月	30	153	85%	134	74%	170	94%	75	62%	532	80%
12月	31	149	80%	122	65%	174	93%	77	62%	522	76%
1月	31	136	73%	112	60%	169	90%	70	56%	487	71%
2月	28	143	85%	130	77%	159	94%	74	66%	506	82%
3月	31	153	82%	146	78%	175	94%	80	64%	554	81%
合計・平均		1773	80%	1594	72%	2050	93%	851	58%	6253	77%

- ・新規グループホームラベンダーに関しては徐々に慣れていただくためにご家族とも相談しながら利用日数を決めさせていただき、他のホームに比べて開所日数は少なくなっている。
- ・平日を含めて体調不良等で帰省されていたケースで利用日数が減っている部分もあるが、土日祝日に関しては開所日は増えてきている。

ラベンダー、福祉ホームおかりなの家（短期入所）

○ラベンダーでの短期入所と福祉ホームでの短期入所のすみ分けの整備

- ・利用者同士の相性やグループホームでの生活体験、利用者の障がい特性によって、ラベンダーとおかりなの家での短期入所利用のすみ分けをしている。ラベンダーでの短期入所は新規利用の方の1回だった。

○稼働率の向上

- ・男性短期入所の利用はご家族の体調不良等や行動障がいの方の利用も定期的に行っていたこともあり、稼働率は上がっているが、女性短期入所の利用に関しては支援者の体制上の課題や定期利用の利用者のグループホーム入居に伴って稼働率は下がっている。

【稼働率（％）】 ※男性2床 女性2床

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
男性	45%	48.3%	96.6%	91.9%	62.9%	43.3%	54.8%	50%	61.2%	58%	53.5%	58%	60.4%
女性	0.5%	0.8%	6.6%	6.4%	8%	8.3%	4.8%	6.6%	8%	9.6%	12.5%	12.9%	8%
全体	25%	28.2%	51.6%	49.1%	35.4%	25.8%	29%	28.3%	34.6%	33.8%	33%	35.4%	34.2%

全体

○人材確保

- ・福祉ホームに関しては資格が必要であることから応募も少ない状況である。グループホームに関しては、応募はあるが面接や研修を通してお断りさせていただくこともあり、人材確保にはつながっておらず、他部署職員にヘルプを依頼している状況にある。生活支援に興味を持っていただけるように勤務形態や給与形態の見直しを行い、研修内容や引継ぎ方法についても課題検討を行った。

○業務整理

- ・精神科の往診を開始したことや、事務業務の整理等を行ったが、緊急対応（夜間帯の見守りを含む）や細かな支援の必要性が増加してきていることから直接支援以外のケース相談や引継ぎ等に時間を取ることが難しい状況であり、

日中の時間帯の勤務体系に課題が出てきた。

(5) 情報発信の状況

- ・機関誌の発行については予定していた時期からずれることもあったが発行することが出来た。
- ・家族会の開催については新規グループホームも増えたこともあり、予定していた福祉ホームとグループホームの合同ではなく別々で行うこととした。
- ・行事についてはホームページで発信したが、各ホームで行うような小単位での行事については発信が出来ていない部分があった。

(6) リスク対応の状況

- ・昨年度と同様に事故の内容の中に服薬事故があった。服薬方法に問題があった事故もあったため、利用者に確認の上服薬方法を変更することもあった。
- ・昨年度大きな火傷につながる事故があり、各会議で事故が起きた際の初期対応の重要性を共有していたが、その時の反省点が生かされず軽度の火傷につながるような事故があった。事故が起こった際に少しでも落ち着いて対応することが出来るようにマニュアルの確認と見直しを行った。

(7) 職員育成

- ・各研修の参加や法人内でのスーパーバイズを通して職員育成に努めた。その他の部分で日勤帯の職員体制が薄いこともあり、ケース相談や各ホームの課題を検討する時間の調整が課題となった部分がある。
- ・ラベンダー事務所移転に伴って、ラベンダー事務所でのアルバイトスタッフを含めた申し送りを行う事で他のホームの状況や日中活動からの引継ぎの共有につなげることが出来た。

(8) 地域との交流・連携の状況

- ・今年度も地域清掃や地域の避難訓練に参加した。毎回参加させていただくことで地域の方からも声をかけていただく機会も増えてきている。

(9) 施設設備の状況

- ・グループホームのスプリンクラー設置も予定通り終えることが出来た。

9. 放課後等デイサービスふるふる（放課後等
デイサービス）

9. 放課後等デイサービスふるふる（放課後等デイサービス）

（1）総括

支援の対象を中高生中心におき、支援に取り組んできた。中高生の年齢は、身体の成長とコミュニケーションの成長のアンバランスが見られる時期であり、思春期特有の難しさがある。個人の違いがおおきいため、できる限り個別で考えられるように努めてきた。個人の特性把握につとめ、それぞれの理解の度合いにあわせて個別の過ごし方を提案し、環境を整理することで安心して過ごせるようになってきていると感じられている。

（2）職員体制

- ・管理者 1 名
- ・児童発達責任者 常勤 1 名
- ・支援員 常勤 1 名 非常勤 1 名
- ・登録ヘルパー 約 15 名

（3）利用者の状況（平成 30 年 3 月 31 日現在） *別紙②

契約者数：33 名

学年構成：

学年区分	人数(名)	割合 (%)
未就学（4 月より小学生）	0 名	—
小学生低学年	0 名	—
小学生高学年	6 名	18%
中学生	16 名	49%
高校生	11 名	33%

（4）重点方針及び事業内容 取り組み結果

○ふるふる方針設定

- ・重度の中高生知的障がいの児童を中心に支援を行ってきた。思春期や環境の変化があり、周囲との関係性が悪くなる児童がみられた。個人の理解の度合いを考慮して、個室や 2 階の部屋をつかい、安心できる場所や避難できる方法を提案した。しんどいときなどに、自ら回避できるようになる姿が見られて来ている。

○評価セッションの導入により、『アセスメント⇒計画⇒モニタリング』の流れを作る。

- ・職員配置と業務の整理ができなかったため、個別に取り出して『評価セッション

ン』を行うことができなかつた。しかし、ケース会議等で、定期的に話す場を設け、普段の様子やモニタリング会議などから得た『評価』や『情報』を共有しモニタリングを全体で行った。そのため職員が共通した支援を行いやすい環境になってきている。

○成人期へとつなぐ

- ・引継ぎのための資料を整理し、夏休み中の職場研修の受け入れ時や卒業前の引継ぎの会議時に利用者情報を伝えることに努めてきた。

また、お仕事体験で、毎回目標を決め、支援の積み上げを意識的に行った。少しずつ子どもが自ら行えることや役割を理解して行動している姿が見られてきている。

○事務所移行のため、2階に事務所を構え、受け入れから計画まですべて行えるようにする。

- ・2階に鍵付き書庫を購入し、受入から計画・モニタリングまですべてを行えるような環境を整えた。しかし、本部から離れており、少人数で孤立しやすいため、情報共有等の改善が必要であることも課題と感じた。

(5) 情報発信の状況

ふるふる便りを2回発行し、活動の様子などの情報発信を行った。

(6) リスク対応の状況

- ・緊急時のマニュアル整備を継続して進めてきた。特に、昨年度に車両関係の事故が多かったため、車両のチェック表などを活用し乗車前点検や注意喚起をし、事前の安全確保を行ってきた。
- ・相性の良くない児童同士の動線や過ごす場所を整理するために、庭での活動ができるようにした。ラティスなどで近隣への配慮を行い、安心して活動できる環境の整備に努めた。

(7) 職員育成

- ・職員会議等で情報共有を行うと共に、事例検討を定期的実施した。登録ヘルパーに対しては、行動援護従事者研修の受講を計画的に行った。

(8) 地域との交流・連携の状況

- ・近隣の他法人とハロウィンイベントを行った。
- ・お仕事体験（販売、畑収穫、缶つぶしなど）を実施した。

- ・ 自立支援協議会のこども支援部会に所属し、地域課題の検討を行った。
- ・ インターンの学生受入を行った。

【別紙②】

平成29年度 放課後等デイサービス 利用実績																														
	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月							
1	土		月	12	木	7	土		火	6	金	6	日		水	8	金	10	月		木	7	木	7						
2	日		火	10	金	4	日		水	8	土	8	月		木	3	土		火		金	3	金	6						
3	月		水		土		月	9	木	13	日		火	9	金		日		水		土		土							
4	火	11	木		日		火	4	金	10	月	11	水	8	土		月	9	木	6	日		日							
5	水	3	金		月	6	水	9	土		火	8	木	7	日		火	8	金	5	月	8	月	11						
6	木	10	土		火	6	木	4	日		水	4	金	4	月	8	水	6	土		火	6	火	6						
7	金	8	日		水	7	金	6	月	5	木	7	土		火	11	木	10	日		水	10	水	7						
8	土		月	7	木	10	土		火	12	金	5	日		水	4	金	6	月		木	3	木	5						
9	日		火	8	金	5	日		水	5	土		木	9	木	9	土		火	11	金	8	金	9						
10	月	4	水	8	土		月	5	木	3	日		火	6	金	5	日		水	9	土		土							
11	火	10	木	10	日		火	3	金		月	11	水	10	土		月	7	木	6	日		日							
12	水	8	金	5	月	5	水	10	土		火	6	木	8	日		火	6	金	12	月		月	8						
13	木	10	土		火	8	木	9	日		水	4	金	11	月	9	水	8	土		火	9	火	7						
14	金	3	日		水	6	金	11	月		木	5	土		火	9	木	7	日		水	6	水	8						
15	土		月	7	木	9	土		火		金	5	日		水	9	金	8	月	9	木	8	木	11						
16	日		火	7	金	6	日		水		土		木	12	木	6	土		火	11	金	5	金	7						
17	月	9	水	8	土		月	12	木	11	日		火	7	金	5	日		水	8	土		土							
18	火	7	木	8	日		火	2	金	10	月	8	水	5	土		月	11	木	7	日		日							
19	水	9	金	5	月	9	水	9	土		火	7	木	6	日		火	11	金	3	月	10	月	9						
20	木	9	土		火	4	木	9	日		水	9	金	7	月	11	水	6	土		火	11	火	6						
21	金	5	日		水	6	金	9	月	3	木	6	土		火	8	木	12	日		水	9	水							
22	土		月	8	木	12	土		火	10	金	6	日		水	11	金	7	月	10	木	7	木	4						
23	日		火	7	金	3	日		水	2	土		木	5	日		土		火	8	金	5	金	7						
24	月	9	水	8	土		月	1	木	12	日		火	10	金	5	日		水	9	土		土							
25	火	7	木	10	日		火	8	金	7	月	10	水	4	土		月	11	木	6	日		日							
26	水	9	金	3	月	12	水	8	土		火	11	木	11	日		火	10	金	2	月	13	月	12						
27	木	8	土		火	6	木	9	日		水	9	金	6	月	8	水	7	土		火	9	火	10						
28	金	6	日		水	6	金	5	月	8	木	8	土		火	8	木	1	日		水	8	水	6						
29	土		月	7	木	4	土		火	12	金	2	日		水	9	金		月	6			木	5						
30	日		火	4	金	2	日		水	4	土		木	5	日		火	7	月	7			金	5						
31			水	7			月	11	木	9			火	10			水	6					土							
合計	145		147		143		144		150		148		159		155		161		141		145		156		1794					
日数	19		20		22		20		19		21		21		21		20		19		19		21		242					
平均	7.6		7.4		6.5		7.2		7.9		7.0		7.6		7.4		8.1		7.4		7.6		7.4		7.4					

